

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校 6/14 第7号 文責 林

学校教育目標 「自らの未来を切り拓く、心豊かな生徒を育成する」

修学旅行を終えて

3年生は、修学旅行で5月31日（火）から6月2日（木）まで2泊3日で沖縄を訪れました。遅くなりましたが、3年生の修学旅行を終えての感想を紹介します

3日間という短い日程で私は、数えきれないほど多くの初体験をしました。特にその中でも印象に残ったのは、3つです。1つ目は、飛行機です。飛行機では、まず大きさにそして離陸にと本当に驚きの連続でした。窓の外には飛行機より下に雲があり、乗っているだけですごく楽しかったです。

そして、あっという間に着いた伊江島での民泊が2つ目の初体験です。初めて来た島で初めて会った方の民家で過ごす民泊は、はじめはすごく緊張しました。でも、民家のお父さん、お母さんが優しくしてください、夜には、もう家族のようになっていました。改めてお父さん、お母さんの心の広さやあたたかさを感じることができたと思います。丸一日も一緒に過ごすことができなかったのに、お別れはすごく寂しく、まだ帰りたくない！と思うほどでした。私は、「イチャリバチャーデ」という沖縄の方言が好きです。理由は、この言葉には「出会えば兄弟」という意味があり、伊江島の方々にぴったりの言葉だからです。私たちが短い間で家族のようになれたのは、お父さんやお母さんが出会ったときから親子として受け入れていたからだと気づくことができました。

3つ目は、沖縄の海や自然です。透き通った海水は本当にきれいでした。深さや日の当たり具合などで色の変わる海は今も忘れられません。自然もいたる所にあり、見たことのない花や木がたくさんありました。京都とは、全く違った景色はすごく心に残りました。

とても短く感じられた3日間でしたが、とても忘れられない思い出となりました。この修学旅行を通して沖縄の歴史や文化だけでなく人のあたたかさにもふれることができ、自分自身が成長できたと思います。これを活かして残りの行事も全力でこなしていけたらいいなと思います。

修学旅行で沖縄に行って平和について学びました。沖縄にはきれいな海や自然があり、とてもすばらしい場所ですが、日本で唯一地上戦がおこった場所もあります。終戦してしばらくの間、日本にかえってこなかったこともあるそうです。今でも日本にある米軍基地の7割が沖縄にあり、軍関係者による悲惨な事件もありました。このように沖縄には光と影があります。だからこそ沖縄には、一度は行くべきだと思います。平成という平和な時代に生まれ、守られることが当たり前となっている私たちには、戦争の恐ろしさは、とうていわからないでしょう。話しがされても悲しい、ひどいとは思ってもピンとこないでしょう。命の危険にさらされることなどないのだから。それでも学ぶことが大切だと私は思います。嘉手納基地などを見て、沖縄の実態を知り、伊江島の城山は今こそきれいな山だが、昔はアメリカ軍の攻撃で赤く燃え、今よりあった松の木はすべて燃えたと聞きました。攻撃で頂上にあった岩が下に落下してきた跡も見ました。こうして戦争の体験者の方にお話を聞いてもやはりピンとこなかった。それでも聞くことに意味があるのだと思います。終戦から70年ほどがたち、戦争体験者の人も減っていき、やがてはいなくなるでしょう。その前に知らなければならない。日本でどんなことがあったのかを。広島や長崎でも知ることができるかもしれません、今の日本について、アメリカとの関係について知るには沖縄に行くべきだと思います。そうして学んだことをこれから平和のために活かしていくのが私たちにできることだと沖縄に行って思いました。

